

2024年度 こども園 アサンプション国際幼稚園 幼稚園評価報告書

1 教育目標

キリスト教の精神の教えに基づき「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとする。

- ・正しく生き生きとした子ども
- ・優しく明るい子ども
- ・考え、最後までやり抜こうとする子ども

キリスト教の精神を通して愛されて愛する心を知り、一人ひとりが、かけがいのない大切な存在であることを知る。ありのままの自分が認められる安心感を、また互いの違いを認め合いながら一緒に生活することの喜びを感じられるよう、愛情深く子どもたちと関わる。

2 重点取組内容

1. 教育事業
2. 教育環境の整備
3. 社会連携・奉仕事業
4. 募集に係る事業

【学校評価 自己評価アンケートの結果と分析】（2025.3 月実施）

■保護者

<評価できる点>

- ・保育に温かみがあってアットホームな園
- ・子供の個性に合わせた声かけやサポート
- ・教員がほかのクラスの子供の名前も覚えてくれている
- ・工夫を凝らした保育と国際イベントがある

<課題・改善点>

- ・幼稚園での子供の様子を知ることができる機会が少ない
- ・感染症の罹患の状況が知りたい（罹患クラスと各人数）
- ・運動の時間が少ない感じる
- ・教員の人数が少なく感じる
- ・園からのお知らせが遅い

■教職員

- ・併設の小学校、中学校高等学校があり世代を超えた交流の機会があります。また世界にアサンプションの学校があることで、留学生などが来園されグローバルな感覚を自然に知る環境があります。
- ・クラス運営は担任・副担任および必要に応じて補助の先生がいるので、負担軽減され子どもとより向き合うことができる
- ・モンテッソーリの玩具が子ども達の身近にありいつでも遊べる環境が設定されてるところ。
- ・教育の中身を時代に合わせていく必要があると感じる。

<学校関係者評価>

- ・先生が保護者にも寄り添ってくれるので安心感がある
- ・充実した保育でありながら他園よりも経費が安い
- ・朝のお迎えにいつも先生・守衛さんが立っていて迎えてくれるのが良い

など、ご意見を頂きました。

また今後の改善・要望点として、

- ・園のホームページの更新ができていない
- ・園の広報活動が少なく感じる。
- ・小中高の英語の先生が幼稚園にも来て一緒に遊ぶ時間等を設けてもらえれば子供達が小学校などにも興味を持ち内部進学率が上がるのでは

といったご意見をいただきました。

<分析>

まずは保護者が安心してお子様を預けていただけることを最優先事項として取り組んできました。

また時代や保護者のライフスタイルに合わせて、園の教育・保育の在り方に対応できるように職員配置
預かり保育では2号認定利用定員を可能な限り増やしました。また一時預かりについても教員を増員し
保護者の希望に応えられました。教育については子ども達が自ら考え、行動できるように「学びの芽」
を大切にした教育を行っていきます。

今回の調査で園を知っていただくための広報が足りていないことが分かりました。今後ホームページ
の内容をさせることや外部のイベント等に積極的に参加して園を園児募集だけでなく教員確保の観点から
もアピールしたいと思います。また現在の英語レッスンについては一定の評価をいただいています。
一貫校として英語教育を幼稚園でどのように発展していくのかを考えていきます。

3 本年度の取組内容及び自己評価

重点 取 組 内 容	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action) 判定： できた ○ 一部できた △ できなかった ×
教 育 事 業	(1) 教員のレベル向上	<p>(ア) 教員スキル向上のための研修を受ける。</p> <p>(イ) 学校カウンセラーによる研修を実施する。</p> <p>(ウ) 「カトリック教職員保育大会」に参加する。</p> <p>(エ) 学院外講師を招き、体験活動を実施。</p> <p>(オ) 宗教教育 目には見えないけれど、いつも見守ってくださる方がいらっしゃることを子どもたちが感じる。</p> <p>(カ) 英語、体操、それぞれの専門指導員のもと、保育を実施する。</p>	<p>(ア) 府・市で開催している研修や幼稚園連盟の近畿地区研修大会等、自ら学びたい分野の研修を受け、保育の質の向上に努める。</p> <p>(イ) 学校カウンセラーによる研修を年3回実施した。グループディスカッションを中心に行った。</p> <p>(ウ) パウロ酒井俊弘司教様の講話、「カトリックの視点から見た保育とは」を聞き、カトリック教育の理解を深める。</p> <p>(エ) 書道、茶道等の体験活動を実施。また「だんまる一座の紙芝居」「ピアノカの魔術師」を楽しんだ。</p> <p>(オ) 日々の生活の中、で静かに手を合わせ祈る。また讃美歌を歌ったり聖劇を通して神さまを身近に感じる。聖堂に行き、シスターから神さまのお話を聞く。</p> <p>(カ) 専門指導員による体操指導により心と体の鍛錬と体力の向上を図る。 また英語専門の指導者のもと、英語でのゲームで遊んだり歌ったり楽しみながら自然に英語や国際感覚を身に付ける。</p>	<p>(ア) 判定：○ オンライン研修が中心であった。そのため研修を受けやすく、各自たくさんの学びがあった。ただし管理職や事務職員向けの研修が少なく感じる。</p> <p>(イ) 判定：○ 教職員間で意見を言い合うことができ、近い立場同志それぞれの悩みを出し合うことで、分かち合いの時を持つことができた。</p> <p>(ウ) 判定：○ 対面での研修であったため、より心に届く研修となった。研修をさらに重ねることにより、カトリック教育への理解を深めていく。</p> <p>(エ) 判定：○ 普段とは違った経験をすることができた。子ども達も集中して見入っていた。</p> <p>(オ) 判定：○ シスターから直接お話を聞くことで、神さまが、いつも見守ってくださっていることを感じ、静かな心で祈ることができた。</p> <p>(カ) 判定：○ コヤマススポーツスクールに体操を業務委託し、子どもたちの運動能力を伸ばした。 幼児英語では、ネイティブ専任教諭による「ジェーンイングリッシュ」を実施し幼児期から英語に興味関心を持つことができた。</p>

<p>2 教育環境の整備</p>	<p>(1) 子どもたちが毎日過ごす環境を安全に整える。</p>	<p>(ア) 毎日の各所安全点検の実施する。</p> <p>(イ) 通園バスの乗降の際は、ケガのないよう意識を高く持ち、マニュアルをもとに安全に送迎する。</p> <p>(ウ) 箕面市監査実施。改めて保育環境を確認・評価をもらう。</p> <p>(エ) 門の前での送迎時の見守りを実施する。</p> <p>(オ) カメラ付きテレビモニターの設置。</p>	<p>(ア) 園庭、遊具点検を実施する。</p> <p>(イ) 登降園時の通園バスでは、人数確認、名簿確認をきちんと行い、忘れ物、子どもの置き去りがないよう、乗車職員と運転手によるダブルチェックを行う。</p> <p>(ウ) 保育室のみならず給食室や園庭、非常経路などを確認。</p> <p>(エ) マナーを守って安全に登降園できるよう、守衛や職員が門の前で迎え入れや送り出しをする。</p> <p>(オ) カメラ付きテレビモニターを7台設置。</p>	<p>(ア) 判定：○ 毎日、日直が遊具点検を実施することができた。</p> <p>(イ) 判定：○ 朝の降車時は添乗員に加え出口に教員を配置し安全に降車できた。通常的人数確認、名簿確認に加え全車両に置き防止装置の設置が完了し、トリプルチェックで安全に送迎できた。</p> <p>(ウ) 判定：○ 窓際の荷物の移動や保育室以外の部屋へ子供が行けないように安全対策など数点指摘を受けてました。対策実施完了しています。</p> <p>(エ) 判定：○ マナーを守って安全に登降園できるよう、教員が迎え入れや送り出しをするようにした。</p> <p>(オ) 判定：○ カメラ付きテレビモニターを設置していることにより、子どもたちの安全を見守ることができた。</p>
<p>3 社会連携・奉仕事業</p>	<p>(1) 地域との連携や子育て支援の充実を図る。</p>	<p>(ア) 地域子育て支援のイベント「みんなであそぼう」（園庭開放）を定期的の実施。先生やお友だちと出会い、たくさんの遊びを通して心身ともに育ちあう場を設ける。</p>	<p>(ア) 地域子育て支援のイベントを年間12回以上（園庭開放を含む）実施する。</p>	<p>(ア) 判定：○ 地域子育て支援として「みんなであそぼう」を実施した。平均8名ほどの親子の参加があった。また新年度の入園に繋げることができた。</p>

4 募 集 に 係 る 事 業	(1) 募集活動の強化	<p>(ア) 地域の子育て支援の一貫として「プレスクール」を実施する。就学前の2歳児の親子対象に、親子で製作や集団遊びを楽しみながら心身ともに育ちあう場を提供する。</p> <p>(イ) 2025年度の募集を強化する。</p> <p>(ウ) パンフレット、ホームページの見直し。</p> <p>(エ) 入園説明会の実施。</p>	<p>(ア) プレスクールを実施。 ・ひとクラス6名～9名を3クラスで行う。年間20回実施。</p> <p>(イ) 2025年度3歳児進入園児受け入れ数を80名とする。</p> <p>(ウ) パンフレット、ホームページのデザイン・掲載写真の更新。</p> <p>(エ) 一般向け2回とプレスクールに分けて対面で実施。</p>	<p>(ア) 結果：× 23名中21名が入園に繋がった。</p> <p>(イ) 判定：× 2025年度の3歳児入園者数は54名(3月末実績)となった。</p> <p>(ウ) 判定：△ 2026年度からの教育改革に向けてホームページやパンフレットを更新するため2026年度中に変更する方針に変更した。</p> <p>(エ) 判定：△ 一般参加者60名であった。</p>
	(2) 関係各所との連携	<p>(ア) 園から併設小学校へ進学する子どもたちへの丁寧な申し送りをする。</p> <p>(イ) 併設小学校・中学校高等学校の生徒との交流</p>	<p>(ア) 内部進学する子どもたちの状況を小学校と情報を共有する。</p> <p>(イ) 「ハロウィンパーティー」、「チャリティ・デー」 「高校生 保育体験」</p>	<p>(ア) 判定：○ 卒園後も引き続き細やかな配慮ができるように話し合いの場を持つことができた。</p> <p>(イ) 判定：○ どの交流会も楽しく参加させてもらうことができた。</p>